

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	情報処理演習Ⅱ
担当教員の実務経験	
対象学生	保育児童福祉学科 2 年
授業時間数・単位数	30 コマ ・ 2 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []
授業の概要	情報処理演習Ⅰに引き続き、コンピュータについての知識と技能を身につけることを目標とする。特にインターネットを活用し、高度な情報環境を有効に活用できるようにする。 インターネットの活用によって、国内のみではなく、諸外国の福祉の情報も取り入れることが可能になる。また、単なるコンピュータの技術を身につけるだけでなく、ネットワークを通して、グローバルな視野を身につけることも目標としている。
授業の到達目標	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する
準備学習・時間外学習	
使用教科書・教材・参考書	太田宗雄、他『コンピュータ入門』共立出版。
授業上の注意点	

授業計画（内容）		コマ数
HTML の歴史～現状について学ぶ Web サービスはいつ頃からどのようにして始まったのか、また現代社会におけるインターネットの位置づけを理解し、最近のインターネットに関するニュース等をまとめる。		1
HTML の文法について学ぶ・Web ページを作成するツールの紹介等 Web ページはどのような仕組みでできているのか、またどのような文法で書かれているのか理解する。 Web ページを記述する言語であるHTML を編集するためのエディタについても調べて使ってみる。		1
基礎的なHTML の演習 HTML の基本文法を学び、簡単なHTML を記述してみる。		1
画像の挿入、ハイパーリンクを利用したHTML 記述演習 Web ページにさまざまなメディアを挿入する際の記述方法を学ぶ。 また、Web の特徴でもあるハイパーリンクの仕組みを理解し、記述してみる。		1
その他 さまざまなHTML タグを利用した演習 HTML にはさまざまな要素が定義されている。それらについて理解し記述して試してみる。		1
スタイルシートの基礎・概要について学ぶ Web ページのデザインは主にCSS で行う。CSS とは何かを理解する。		1
スタイルシートの実装について スタイルシートの記述方法を理解し、さまざまなセレクトについて学ぶ。		1
Web のユーザビリティについて 見やすいWeb、使いやすいWeb とはどのようなものだろうか。ユーザビリティの観点から考えてみる。		1
Web サイトの構築について（概念） Web は1ページで完結することは少ない。具体的なサイトの構成を考え、ページデザイン・リンクの構成を検討する。		1
テーマを決めてHTML、CSS を利用したWeb ページを作成する 検討したサイトデザインを元に、実際にHTML、CSS を利用してサイトを構築する。		1

HTML・CSS 作成演習(1)	1
HTML・CSS 作成演習(2)	1
作成したWeb の相互評価 完成したサイトをピアレビューし、より良いものにするにはどうしたら良いのか検討する。	1
JavaScript とは、簡単なJavaScript の演習 JavaScript とは何かを理解し、JavaScript を利用した簡単なページを作成してみる。	1
Web サービスの今後の展望について Web は社会の中で今後どのような役割を担っていくだろうか。スマートフォンの普及、HTML5 にも触れ展望を検討する。	1
レポート作成、添削指導	15
計	30
授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	児童・家庭福祉論	
担当教員の実務経験	通所介護施設勤務経験	
対象学生	保育児童福祉学科2年	
授業時間数・単位数	75 コマ	5 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	少子高齢社会の進行、家庭や地域における子育て機能の変化など児童や家庭をめぐる環境が著しく変化するなかで、これからの児童・家庭福祉は、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりと家庭に対する支援を一層重視した施策の展開が求められている。 このような児童・家庭福祉をめぐる環境の変化を踏まえて、少子高齢社会と次世代育支援、現代社会と子ども家庭の問題、子ども家庭福祉の理念と権利保障、子ども家庭福祉の法体系と実施体制、子ども家庭にかかわる福祉・保健施策と援助活動などについて学修する。	
授業の到達目標	子ども家庭福祉に関わる法制度や援助活動について理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
第1章「現代社会と子ども家庭」：子ども家庭福祉を取り巻く現状について、 <u>少子高齢化社会と次世代育成支援の視点</u> から学ぶ。さらに、 <u>子育てをめぐる現状、子どもの成長・発達の現状</u> について学修する。		1
第1章「現代社会と子ども家庭」：現代社会の <u>子どもの育ちと子育てに関するさまざまな福祉ニーズ</u> について取り上げ、それに対する <u>支援の基本的視点</u> について理解を深める。		1
第2章「子ども家庭福祉とは」： <u>子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障</u> について学ぶ。まず、「子ども」という存在の意味、「子ども」観などを通して、「子ども」の意義を理解する。		1
第2章「子ども家庭福祉とは」：次に、 <u>子ども家庭福祉の定義</u> を学び、児童福祉を实践する上での <u>原理、理念</u> を学修する。さらに、今日に至るまでの <u>児童福祉の歴史</u> について理解を深める。		1
第3章「子ども家庭福祉にかかわる法制度」： <u>児童福祉法をはじめとする児童福祉六法</u> や「児童虐待の防止等に関する法律」など、子ども家庭福祉に深く関連する法律の概要を学ぶ。		1
第3章「子ども家庭福祉にかかわる法制度」：子ども家庭福祉行政の <u>実施主体と主な実施機関、児童福祉施設</u> など、子ども家庭福祉サービス体系、サービス利用の方法、財源などを学ぶ。また、専門職、苦情処理について学修する。		1
第4章「子ども家庭にかかわる福祉・保障」：（母子保健）母子保健の目的、歩み、 <u>母子保健法</u> 、母子保健施策の現状、今後の課題等について学修する。		1
（障害・難病のある子どもと家庭への支援）障害児および家族の実情とニーズ、障害児の支援に関する制度、難病の子どもへの支援に関する制度について学修する。		1
（児童健全育成）：時代の流れを追いながら児童健全育成施策の目的と内容を学び、 <u>児童健全育成施策の現状</u> や今後の課題について学修する。		1
（保育）：保育の実施体制、保育の対象、保育制度の変遷など保育制度の概要について学修する。また、 <u>変化の激しい保育施策の現状</u> について学ぶ。さらに、 <u>待機児童問題</u> など今後の課題について理解を深める。		1
（子育て支援）：児童育成の責任と子育て支援に対する社会的支援について理解し、「エンゼルプラン」～子ども子育て応援プランまで、 <u>子育て支援施策の動向</u> について学修する。		1

(ひとり親家庭の福祉、児童の社会的擁護サービス): <u>母子家庭等自立支援策大綱の制定と関連法規の改正、ひとり親家庭の福祉施策の概要や近年の社会的擁護の考え方、社会的養護にかかわる機関・施設などについて学修する。</u>	1
(非行児童・情緒障害児への支援): <u>非行と情緒障害、非行の動向と非行についての理解、非行児童とその家族への支援に関する制度、情緒障害の内容とそれへの支援、情緒障害児とその家族への支援の課題などについて学修する。</u>	1
(児童虐待対策、子ども家庭にかかわる女性福祉): <u>児童虐待の定義、児童虐待の実態、子どもを虐待から保護する仕組み、児童虐待対策の課題、女性福祉の歴史的経緯と婦人保護事業、ドメスティック・バイオレンスの対応などについて学ぶ。</u>	1
第5章「子どもと家庭への援助活動」: <u>子ども家庭福祉の理念及び制度を踏まえながら、子ども家庭福祉分野における留意すべきソーシャルワーカー実践上のポイントを体系的に学修する。</u>	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	保育内容総論	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科2年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	保育内容の5つの領域(保育所は「養護」的内容が加わる)は保育実践では分断されて行われるものではない。具体的な生活や遊びの中では、それらが丸ごと含まれているので、実践の中で総合的に捉える視点をもてるようにし、保育を進めていけるように学ぶ。	
授業の到達目標	保育実践における5領域について理解を深め、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	関口はつ江、岸井慶子『実践理解のための保育内容総論』大学図書出版。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
「保育内容総論」とはなにか 教科書を読んで、科目全体の内容を確認をする。		1
第1章 保育の基本 保育とは何か、第1章を読解し内容を整理する。		1
第2章 保育内容の意味 第2章を読解し、保育内容5領域について確認し、整理する。		1
第3章 保育内容の変容とその背景 第3章を読解し、保育内容の歴史的な変容について整理する。		1
第4章 保育方法と保育内容 第4章を読解し、保育方法と内容の関係を整理する。		1
第5章 子どもの育ちをどのように見るか 第5章を読解し、子どもの育ちについて考える。		1
第6章 3歳児未満児の保育内容と指導計画のポイント 第6章を読解し、内容を整理する。保育所保育指針も見ておく。また、保育指導計画のポイントを整理・確認する。		1
第7章 3・4・5歳児の保育内容と指導計画のポイント 第7章を読解し、内容を整理する。保育所保育指針も見ておく。第7章の指導計画のポイントを整理・確認しておく。		1
第8章 1・2歳児の保育の展開 第8章を読解し、1・2歳児の保育の展開についてポイントを確認しておく。		1
第9章 年少児の保育展開 第9章を読解し、年少児の保育展開を調べ、まとめる。		1
第10章 年中児の保育の展開 第10章を読解し、年中児の保育展開を調べ、まとめる。		1
第11章 年長児の保育の展開 第11章を読解し、年長児の保育展開を調べ、まとめる。		1

第12章 学校教育の基本としての保育第13章 現代社会と生きる力の基礎 教科書を読解し、各章の内容をまとめる。	1
第2回から第7回までのまとめ 第1章～第7章について確認・整理して保育内容総論のまとめを各自でする。	1
第8回から第13回までのまとめ 第7章～第12章について確認・整理して保育内容総論のまとめを各自でする。保育内容総論についてのノート整理をする。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	保育内容（健康）	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科2年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	保育内容を構成する健康について、乳幼児の健康に及ぼす保育の可能性について学び、保育における健康な生活、健康への関心、健康増進、安全な生活について理解する。保育の全体構造における健康に関して総合的に指導・援助が行えるよう理論や知識を習得する。	
授業の到達目標	領域「健康」を基本とする指導方法、理論、実践を理解したうえで、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	授業内容に係る講義に加えて、レポート添削等の演習を実施	
使用教科書・教材・参考書	宮下恭子、編『保育内容「健康」』大学図書出版。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
健康の概念に関する理解（1） 子供にとって健康とはどのような状態をいうのか 健康とは(WHO定義ほか) 体力の概念について		1
健康の概念に関する理解（2） 保育者が意識すべき健康観とは 日常生活（運動あそび、生活リズム、睡眠、食生活等）と健康の関係性		1
心身の発達について（1） 発育発達の概念の理解 スキャモンの成長曲線を理解しリンパ型と神経型について考える。		1
心身の発達について（2） 幼児期の身心の発達特性 幼児期の精神的発達特性、 身体の発育・発達		1
心身の発達について（3） 幼児期の生理機能の発達 呼吸・循環器 消化・排せつ 運動器 体温調節の概要		1
基本的生活習慣の形成について（1） 基本的生活習慣とは 内容と形成の必要性家庭における基本的生活習慣の形成		1
基本的生活習慣の形成について（2） 食事の習慣と自立（食欲を育てる、味覚を育てる、コミュニケーションとしての食事等）朝食の欠食について おやつについて		1
基本的生活習慣の形成について（3） 睡眠の習慣と自立（就床と起床 睡眠時間と午睡 サーカディアンリズム）子供たちの睡眠事情		1
基本的生活習慣の形成について（4） 排泄、清潔、着脱等の習慣化(意義 自立 形成)家庭との連携		1

遊びと健康について （１） 子どもにとって遊びの重要性の理解 遊びによって育つもの（身体的、精神的、社会的側面から）	1
遊びと健康について （２） 幼児の遊びの実状と体力、健康との諸問題（図表、データから考える）楽しい運動遊びとは （種目、内容、時間、頻度、強度、方法等）	1
遊びと健康について （３） 具体的運動あそびについて 伝承遊びと運動効果 運動あそび実施上の留意点スポーツの 英才教育、傾向について考える	1
健康と安全について （１） 事故の未然防止と安全教育の必要性 身体的特性と危険度 精神的特性と危険度 自己の実態を理解する（図表、データから）	1
健康と安全について （２） 安全教育の方法、安全能力の育成及び環境の整備 危機管理体制の構築 医療機関との連携 ファーストエイド	1
健康の確保、維持を保障する ふれあいの重要性保護者との連携 保育者の役割と責務	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	保育内容（人間関係）	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科2年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	保育内容を構成する人間関係について理解する。子どもの発達とともに人間関係がどのように広がり、深まっていくのかを理解する。保育における子ども、保育者、家庭、地域を含めた人との関わりについて理解し、保育の全体構造における人間関係に関して総合的に指導・援助が行えるような理論や知識を習得する。	
授業の到達目標	領域「人間関係」を基本とする指導方法、理論、実践を理解したうえで、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座5 社会調査の基礎』中央法規。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
乳幼児を取りまく人間環境について理解する。教科書第2章を読む。子どもが育つ環境は、家庭、地域社会、保育施設等であり、それぞれの人間環境から様々な影響を受けながら人との関係を学んでいく。したがって、現代社会における人間環境をしっかりと捉え、子どもが人と関わる力を育てる上で必要な経験はどのようなことかを検証する。		1
乳児期の「人との関わり」に関する発達の過程を文献、保育所保育指針、発達心理学の教科書から理解する。乳児期には人に対する基本的信頼感を育てることが必須である。そのためまずは愛着関係を築く、自己肯定感を育てる、自己主張や自己発揮の力を育む、等が求められる。そのために養育者にはどのような関わりが求められるかを学ぶ。		1
幼児期の「人との関わり」に関する発達の過程を文献、保育所保育指針、発達心理学の教科書から理解する。幼児期には多くの子どもが集団生活を経験するようになる。そこで、様々な仲間と出会い、葛藤やつまづきを経験しながらも相手の気持ちを理解し、共感しあう喜びも味わえるようになる。その過程を大切にすることが心を育てていくことを理解する。		1
パーテンによる「遊びの発達段階」について文献を調べて、理解する。パーテンは、子どもの社会性の発達に視点を置いて、その発達が子ども達の遊びの変化と連動していることを、多くの子どもを観察しながら検証した。一人遊び、傍観者遊び、平行遊び、連合遊び、協同遊びなど、子どもの遊びの基本的な変化を学ぶ。		1
パーテンによる「遊びの発達段階」の、各段階における保育者の望ましい援助について考察する。遊びの変化は、子どもの人と関わる力の発達を象徴している。したがってそれぞれの遊びの段階と人と関わる力との関係を検証し、各段階で保育者はどのような援助が求められているのかを考察する。		1
保育者と子ども(特に3歳児)の人間関係における留意点を理解する。(保育所の事例から学ぶ。)3歳児の特徴である、保育者との信頼関係を基盤として仲間との関係を少しずつ求めていく姿を実際の保育場面を観察することにより理解し、その時期に必要な保育者の指導・援助を学ぶ。		1
保育者と子ども(特に4～5歳児)の人間関係における留意点を理解する。(幼稚園での事例から学ぶ。)仲間関係を築く力が育まれていく4～5歳児の姿を実際の保育場面の観察から理解する。さらに、5歳児後半には仲間関係から学びあう内容が増える。その時、保育者は子ども達とどのような距離感をもちつつ援助をしていくことが必要なかを考察する。		1
教科書の第4章のⅠとⅡを読む。園生活に焦点を置いて、子どもの自立心や自律心がどのような過程のなかで育つのかを理解する。また単なる群れ集団から互いに支えあい分かち合う意味ある集団に育つ過程を理解する。		1
教科書の第4章のⅢとⅣを読む。園生活のなかで行われるグループ活動を通して、子ども達が自分の役割や立場に責任を持ち、主体的に行動するための援助を学ぶ。グループ内でリーダーやフォロアーになる子どもにはその役割の意味を理解できるようにする。どの子どももグループ内で互いに認め合い、自己発揮していける機会をもてるような工夫を考える。		1

教科書の第7章を読み、理解する。子ども達が人との関係を育てていくなかで必要なポイントを知る。自由性、個性、自覚性・主体性、創造性、総合性等、一人ひとりの子どもに保障されるべき活動や育ちが保育のなかで実現されているかどうかを検証するための視点を学ぶ。	1
現代の保護者を取りまく状況を理解し、子育て支援を考える。保護者がおかれている状況や生育歴を理解し、保護者の子育てを支えるためには、保護者理解から始める必要があることを学ぶ。子どもの健全な成長・発達を願う大人同士として、保護者と保育者が共に協力関係を築いていく重要性を理解する。	1
保育者と関わるなかでの保護者の行動事例を取り上げ、望ましい支援の方法を習得する。保護者支援の実際には、どのような言葉かけや支援の方法があるのかを保護者の心理を読み取りながら、望ましい対応の仕方を知る。実際にロールプレイを行ってみる。	1
現代の学童期の子どもの人間関係を、文献、新聞等を読み、理解する。0歳～18歳までを「子ども」として捉え、幼児期と学童期の育ちの連携を考えるためにも、幼児期以降の子どもの人との関わりに必要な学びを考え、その学びが幼児期の学びの何が基盤となっているのかを考察する。	1
現代社会における人間関係の諸問題について議論し、幼児期の教育課題について考察する。現代社会における諸問題が子どもの人間関係の育ちにどのような歪みをもたらしているのかを考察し、そのために保育施設で補完すべき教育とは何かを考える。	1
学修のまとめを行う。保育施設において、子どもの人と関わる力を育てる上で望まれる保育とは何か、をこれまでの学修を基に考察し、保育者として実力をつけるために今後必要な学修を自覚する。	1
レポート作成、添削指導	60
	計 75
	授業単位数 5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	社会的養護内容	
担当教員の実務経験	児童養護施設勤務経験	
対象学生	保育児童福祉学科2年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	学生は、居住型児童福祉施設の創設の意図や目的について、座学や演習を通して学ぶ。また、同時に施設を利用する子どもへの理解を深めるとともに、福祉施設が内在する機能や役割について学ぶ。さらに、児童の心身の成長や発達を保障し支援するために必要な知識や技術、環境について学修し、適切な児童観を育て、かつ施設養護の有効性について学ぶ。加えて、地域社会と居住型児童福祉施設の関係性についても学修する。	
授業の到達目標	社会的養護の制度と特質について理解を深め、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	小野澤昇、田中利則、大塚良一『子どもの生活を支える社会的養護内容』ミネルヴァ書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
社会的養護内容とは何か ＜社会的養護内容とは、家庭の代替として、児童の最善の利益を保護・増進するために、要保護児童を対象として社会的責任で保護養育し、児童が心身共に健康に育つように保障するための実践分野のことである＞		1
社会的養護内容の基本的視点 ＜社会的養護内容の基本的な視点として重要視する必要があるのは、権利擁護のための取り組みや施設利用者からの苦情解決の取り組み、利用者の課題の解決・緩和、支援者としての倫理・責務等である＞		1
社会的養護内容を進める際の基本的方向性 ＜社会的養護内容を進める際の基本的方向性としては、家庭養護・家庭的養護の推進、専門的ケアの充実、自立支援の充実家族支援・地域支援の充実、相談支援・アフターケア、その他による予防ケアの充実である＞		1
施設養護の現状と課題① ＜施設養護の現状と課題については、施設内における暴力や虐待が近年一層問題視されていることを背景として、あらためて利用者の人権擁護に向けたスーパービジョンの活用等の取り組みは欠かせない＞		1
施設養護の現状と課題② ＜施設養護の今一つの現状と課題は、施設退所後のリビングケア(生活力や社会力の強化)や進路の拡充、相談援助あるいはアフターケアの充実が必要不可欠である＞		1
施設における支援の実践① ＜利用者の状況やニーズの分析、支援計画作成、支援の実践、支援の評価等の流れを理解することは重要＞		1
施設における支援の実践② ＜施設の小規模化や職員の労働状況の内容および質の変化が進んだ中で利用者のアメニティの推進やインターンシップ体制の確立、就労支援と自立等の理解は重要な事柄＞		1
児童福祉施設・機関における支援の実践① ＜児童施設の支援の実践の中で必要とされるのは、利用者に寄り添う支援や成長・発達を促進するための支援、退所や自宅に向けての準備、社会活動の参加に向けての支援を重要視するとともに、関係機関とのつながりを強めておく必要がある＞		1
児童福祉施設・機関における支援の実践② ＜施設の支援の実践では、保護者や家族とのつながりを再構築したり、ADL や IADL の獲得は当然のこと、日常生活日課や行事、利用者個々に応じた個別指導にも力を注ぎたい必要がある＞		1

社会的養護内容の実践を行うための専門的技術 ＜適切な社会的養護内容の実践を行うために、スタッフの技術や知識、専門性、一般常識、福祉観、価値観、隣接分野に関する知識を日常的に身につけたり磨いたりすることは必要不可欠である＞	1
社会的養護内容の実践を行うための専門的技術の応用 ＜社会的養護内容の充実(利用者の QOL の向上)を図るためには、施設の住環境の整備に関する考え方や建物の設計・施工・設備面から考えた整備に関する工夫の方向性、ケアや支援・レクリエーション等に関する工夫、それぞれの利用者のニーズに合わせた住環境や設備、嗜好品の提供等に関する工夫は必要不可欠である＞	1
利用者支援とリスク管理 ＜施設において利用者の権利擁護に力を注ぐための一環として、支援する際に彼等の心身を傷つけたり、人権を侵害する危険性は多分に生じやすかったりしやすいので、これらの事態を回避するためにリスクの管理は重要である＞	1
社会的養護内容を受け持つ施設の役割と運営管理にあり方 ＜社会的養護内容を受け持つ施設の役割は、基本的には、家庭の代替を務め、要保護児童の現実的な問題や将来に向けての課題を克服するために継続的な支援を実施する。その中で重要視したいのは、組織の健全化とスタッフ間のコミュニケーションの適切な管理である＞	1
施設実習に向けて必要とする知識 ＜施設実習に向けて必要とする知識は、当該施設に関する情報や一般社会常識、施設で日常的に必要とされる知識、そして利用者・保護者に関する情報、利用に至る家庭背景や障害・難病等に関する情報、データ等である＞	1
今後の展望と課題 ＜国家や社会が安定していることは、社会的養護内容の充実を図る上においては重要な課題である。その中で、現在、社会福祉の制度の脆弱化や職員不足、職員の質の低下が問題視されている。加えて、一般社会においては、利用者の権利擁護の問題が一層着目されるようになってきている。これらを背景として、施設養護内容の適正化や維持・向上は欠かせないものとなってきている＞	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	保育内容（環境）	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科2年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	子どもにとって身近な環境とは何か、環境について基本的なことを学ぶと共に、保育内容を構成する環境のねらいと内容について理解する。子どもの発育・発達における環境とのかかわりの重要性を学びながら、保育の環境や環境構成のあり方について理解する。保育の全体構造における環境に関して総合的に指導・援助が行えるような理論や知識を習得する。	
授業の到達目標	領域「環境」を基本とする指導方法、理論、実践を理解したうえで、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	谷田貝公昭『新・保育内容シリーズ3 環境』一藝社。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
保育の基本と領域「環境」 保育の意味・環境を通して行う保育		1
領域「環境」をさらに深く理解する 物的環境・人的環境・自然環境・雰囲気的環境		1
身近な環境にかかわる力を育てる保育者の援助① 保育者の願いを「環境」にこめる		1
身近な環境にかかわる力を育てる保育者の援助② 日々の自然な生活の流れの中で		1
子どもの身近な環境にかかわる力の発達①（文字） 文字への関心・次第にマークから文字へ		1
子どもの身近な環境にかかわる力の発達②（生命） 生命の尊さ・園で小動物を飼育する		1
子どもの身近な環境にかかわる力の発達③ 「数」の概念形成と基本原則・子どもの数量の感覚		1
季節や自然を感じる① 子どもの知的好奇心にそった関わりの留意点		1
季節や自然を感じる② 自然事象を遊びに取り入れる・「学び」「知恵」がある伝承遊び		1
子どもの育ちを支える園環境①（保育室） 生活空間をつくる・適切な環境を構成する多様な視点		1
子どもの育ちを支える園環境②（廊下、遊戯室など） 園空間を活かして遊ぶ・環境適応能力の向上		1
乳幼児の安全な環境 安全能力の形成と保育の基本・防災教育		1
領域「環境」の内容として大切なこと 対象を理解するための教材研究・保育者の価値観や生活観が伝わる		1

幼児教育の現代的課題と領域「環境」① 子どもの育ちと学びを理解する・保育者の役割(保育の教材と環境をデザインする)	1
幼児教育の現代的課題と領域「環境」② 現代社会における子どもと環境(都市化・情報化、少子化、核家族とライフスタイルなど)	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	保育内容（言葉）	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科2年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	保育内容を構成する言葉について理解し、子どもの言葉の発達と言語環境について学ぶとともに、保育者として絵本・童話・紙芝居等の言語教材について理解し、保育の全体構造における言葉に関して総合的に指導・援助が行えるような理論や知識を習得する。	
授業の到達目標	領域「言葉」を基本とする指導方法、理論、実践を理解したうえで、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	駒井美智子『保育者をめざす人の保育内容「言葉」』みらい。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
シラバスを確認し、保育内容「言葉」の学修内容を整理・確認する。		1
第1章 保育内容「言葉」の意義 言葉の意義について理解する。		1
第2章 「言葉」のねらいと内容 「ねらい」とは何か？テキストを読解し、「ねらい」と「内容」の関係を整理しまとめる。		1
第3章 子どもの言葉の発達 0歳～6歳の子ども発達の違いをテキスト付録により調べ、覚える。		1
第4章 子どもの言葉と環境 「言葉」「環境」を考えてみる。		1
第5章 保育者の指導・支援(援助) 保育者の仕事について考える。保育者の指導・援助とは何かをまとめる。		1
第6章 言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもの援助・指導 保育者の機能について学修する。管理・支援・援助の文言をまとめ整理する。		1
第7章 保育者の言葉 保育者と言葉について考えてみる。教科書の第7章をまとめる。		1
第8章 言葉と児童文化教材 児童文化教材とは何か？調べて、児童文化教材を実践してみよう。		1
第9章 言葉あそび 伝承あそびを調べる。言葉あそびを収集する。		1
第10章 実技の方法(児童文化教材) 言葉遊びの発表準備、発表の反省と課題		1
第11章 「言葉」の指導計画 指導計画とは何かを調べ、指導計画を作成する。		1
第12章 発展事例―保育内容「言葉」のまとめ		1
第13章 言葉と国語教育		1

まとめ 第1章～第13章の確認。これまでの学修内容をまとめ、整理する。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	音楽Ⅱ		
担当教員の実務経験	ピアノ教室講師		
対象学生	保育児童福祉学科2年		
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位		
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []		
授業の概要	1. 「音楽Ⅰ」で習得した音楽理論や楽器演奏等の基礎技能をふまえ、保育や教育の場において音楽を展開する上で必要とされる、保育・教育者としての素養と実践に必要な音楽の知識・技能等を習得する。具体的には、歌唱、ピアノ伴奏、弾き歌い（ピアノ伴奏をしながら歌う）等の技術を身につけるとともに、子どもを対象とした音楽活動とその指導について実践的に学ぶ。スクーリング修了後、実技試験を行う。 2. スクーリング修了試験「ピアノ実技試験」、「ピアノ弾き歌い実技試験」について ① ピアノ実技試験では、下記A群またはB群のいずれかを選択し、その中から2曲の選び、指定された1曲を演奏する。 ●A群(ピアノ初心者) 『標準バイエルピアノ教則本』より ・55番 八長調 4/4拍子 ・59番 八長調 3/8拍子 ・66番 八長調 6/8拍子 ・76番 ト長調 4/4拍子 ・85番 ト長調 6/8拍子 ●B群(ピアノ経験者) 『標準バイエルピアノ教則本』より ・80番 二長調 3/4拍子 ・88番 ト長調 4/4拍子 ・93番 イ短調 6/8拍子 ・96番 ヘ長調 2/4拍子 ・100番 ヘ長調 3/8拍子 ・102 番 ヘ長調 4/4 拍子 ・104 番 ヘ長調 3/8 拍子 ② ピアノ弾き歌い実技試験では、以下の9曲を練習し、指定される2曲を演奏する。 ・「ぞうさん」 ・「さんぽ」 ・「もりのくまさん」 ・「いぬのおまわりさん」 ・「アイアイ」 ・「あめふりくまのこ」 ・「おもちゃのチャチャチャ」 ・「ふしぎなポケット」 ・「カレンダーマーチ」		
授業の到達目標	論・実技の基礎をもとに、弾き歌いの技術を習得し、実技試験合格を目指す。		
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する		
準備学習・時間外学習	ピアノの自主練習		
使用教科書・教材・参考書	石橋裕子、他『新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』北大路書房。 楽譜:『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。		
授業上の注意点			
授業計画（内容）			
ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン①			
『標準バイエルピアノ教則本』については、ピアノ初心者とピアノ経験者で、スクーリング修了試験の時の課題が異なる。どちらの課題が自分が勉強するのに適しているか、実際に各課題番号の曲を弾いてみて、決めること。科目終了試験の弾き歌いに向けて、どのような曲が課題となっているかを、実際に弾いてみて、自分が弾けそうな曲から、弾く練習を始める。 また、慣れるためにも声を出して歌いながらピアノ伴奏をする必要がある。			
コマ数			
1			

[illegible]

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	保育実習事前指導 I	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。保育演習を通して、保育場面のなかでの留意すべき事柄を確認する。 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する。 3. 保育者としての心構えや態度を学ぶ。 4. 保育技術を習得する。 5. 実習記録の記入方法・内容を理解する。 6. 指導案を理解し、立案する。(主として部分実習)	
授業の到達目標	実習に必要な技術を習得し、指導案の作成と模擬保育演習における技術向上を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	関口はつ江、他『保育実習ハンドブック』大学図書出版。 駒井美智子『施設実習ガイドー保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
『保育実習の学習ガイド』をよく読み、保育実習の意義・目的を理解する。 実習事前に提出すべき申請書類、実習施設についての情報等を確認する。		1
保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する。 実習に向けて、日常生活における挨拶や言葉遣いなど、望まれる基本的態度を実践できるようにする。		1
施設実習を行う施設の機能、社会的役割、一日の流れなどを教科書や参考書、施設のホームページ等から確認する。 施設の実習日誌を確認し、事前に書くべき箇所はすべて記入し、オリエンテーションで確認する事柄を記録しておく。		1
保育所実習を行う保育所の機能、社会的役割、一日の流れなどを教科書や参考書、保育所のホームページ等から確認する。保育所の実習日誌を確認し、事前に書くべき箇所はすべて記入し、オリエンテーションで確認する事柄を記録しておく。 実習の自己課題を明確にし、12日間の前半、中間、後半に分けてそれぞれの実習のねらいを複数立てる。		1
施設及び保育所の実習日誌の書き方や記録する際に必要な留意点について学ぶ。 保育課程、指導計画の意義・目的を復習し、指導案の書き方について学ぶ。		1
実際に指導案を作成する。複数の年齢、テーマ毎に作成し、望ましい書き方を学ぶ。		1
保育に必要な技術を練習し、自分のものにする。 手遊び、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等を演じて、他者に見てもらい、技術の向上を図る。(1)		1
保育に必要な技術を練習し、自分のものにする。 手遊び、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等を演じて、他者に見てもらい、技術の向上を図る。(2)		1
自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。(1)		1
自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。(2)		1

自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。(3)	1
模擬保育演習を振り返り、子どもの発達の姿や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする。(1)	1
模擬保育演習を振り返り、子どもの発達の姿や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする。(2)	1
これまでの学修を総点検し、いつでも自身の力を十分発揮できるよう準備をしておく。	1
実習直前に向けて、実習施設の情報、提出書類、持参すべき持ち物を確認し、体調管理を完璧にし、実習への準備を万全にする。	1
計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	保育実習事前指導Ⅱ	
担当教員の実務経験	認可保育所・認定こども園副園長経験	
対象学生	保育児童福祉学科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。保育演習を通して、保育場面のなかでの留意すべき事柄を確認する。 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する。 3. 保育者としての心構えや態度を学ぶ。 4. 保育技術を習得する。 5. 実習記録の記入方法・内容を理解する。 6. 指導案を理解し、立案する。(主として部分実習)	
授業の到達目標	実習に必要な技術を習得し、指導案の作成と模擬保育演習における技術向上を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	関口はつ江、他『保育実習ハンドブック』大学図書出版。 駒井美智子『施設実習ガイドー保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
『保育実習の学習ガイド』をよく読み、保育実習の意義・目的を理解する。 実習事前に提出すべき申請書類、実習施設についての情報等を確認する。		1
保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する。 実習に向けて、日常生活における挨拶や言葉遣いなど、望まれる基本的態度を実践できるようにする。		1
施設実習を行う施設の機能、社会的役割、一日の流れなどを教科書や参考書、施設のホームページ等から確認する。 施設の実習日誌を確認し、事前を書くべき箇所はすべて記入し、オリエンテーションで確認する事柄を記録しておく。		1
保育所実習を行う保育所の機能、社会的役割、一日の流れなどを教科書や参考書、保育所のホームページ等から確認する。保育所の実習日誌を確認し、事前を書くべき箇所はすべて記入し、オリエンテーションで確認する事柄を記録しておく。 実習の自己課題を明確にし、12日間的前半、中間、後半に分けてそれぞれの実習のねらいを複数立てる。		1
施設及び保育所の実習日誌の書き方や記録する際に必要な留意点について学ぶ。 保育課程、指導計画の意義・目的を復習し、指導案の書き方について学ぶ。		1
実際に指導案を作成する。複数の年齢、テーマ毎に作成し、望ましい書き方を学ぶ。		1
保育に必要な技術を練習し、自分のものにする。 手遊び、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等を演じて、他者に見てもらい、技術の向上を図る。(1)		1
保育に必要な技術を練習し、自分のものにする。 手遊び、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等を演じて、他者に見てもらい、技術の向上を図る。(2)		1
自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。(1)		1
自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。(2)		1

自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。(3)	1
模擬保育演習を振り返り、子どもの発達の姿や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする。(1)	1
模擬保育演習を振り返り、子どもの発達の姿や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする。(2)	1
これまでの学修を総点検し、いつでも自身の力を十分発揮できるよう準備をしておく。	1
実習直前に向けて、実習施設の情報、提出書類、持参すべき持ち物を確認し、体調管理を完璧にし、実習への準備を万全にする。	1
計	15
授業単位数	1